

# 宝の海から

## 白浜で出会った生きたヒキムシのつら

30

京都大学助教 久保田 信 (京都大学 瀬戸臨海実験所)

### 南の海からの便り

【奄美大島名瀬港「豊潮丸」にて】5月17日か、出会う大きな「ヒキムシ」のように見えるが、体内にはひとつも仕切りがない。広島大学生物生産学部の「豊潮丸」に乗り込んで、18日には都井岬の約35km沖の水深約500mで、世界にたった15種しか知られていないヒキムシ(えらひき)動物門に属する無脊椎(せきつ)動物のフタツエラヒキムシ3個体が採集された。

【奄美大島名瀬港「豊潮丸」にて】一見すると山道で出会う大きな「ヒキムシ」のように見えるが、体内にはひとつも仕切りがない。広島大学生物生産学部の「豊潮丸」に乗り込んで、18日には都井岬の約35km沖の水深約500mで、世界にたった15種しか知られていないヒキムシ(えらひき)動物門に属する無脊椎(せきつ)動物のフタツエラヒキムシ3個体が採集された。

# 珍しい「ヒキムシ」を捕獲



わが国には北日本に尾エラヒキムシが知られていない。エラヒキムシ類は

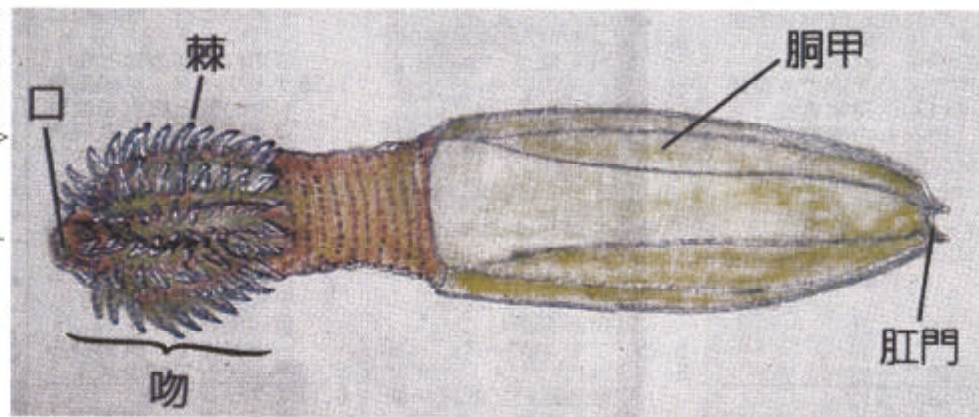
エラヒキムシを捕獲したビームトロール海底表面をそのような網を滑らせてベントスを採捕する底びき網の一種。前部のその部分の幅は約1.7mで、その後ろに長さ約4mの網が袋のようについている。ここにたまった採集物がたまるようになっている。

日本では非常に少ない間が見つかった。体長が、以前、アラスカから瀬戸臨海実験所に研究で来ているトムさんが、アラスカでは大変豊富であり、生態を研究中であると教えてくれた。

エラヒキムシは英語で「プリアプルス」と呼ばれ、「男性のシンボル」に似ていることから名付けられたのだが、あまり似ていないとは思えない。エラヒキムシ類の餌は、ゴカクテダイやハリセンボ、

専門書や標本でお目にかかったことはあるが、乗船していた研究者も生きた実物を見るのは初めてで貴重なサンプルとなった。最大個体は全長14cm、胴部分には2束の尾状付

ばれる胴部分で、長さ9.5cmほど。体幹には多数のくびれがあって、それぞれの環節には多数の突起がある。第3の末端部分には2束の尾状付



イ類や二枚貝類であるが、餌がなくなると共食いもする。珍しい生き物である。

雌雄異体で装甲幼生という体を鎧(よろい)で固めた独特の形態をした若い時代を過ごす。この幼生は何度も脱皮して鎧のとれた今回のような成体になる。

近縁な動物群としては幼生の形態や脳の構造などから、カマキリのおなかにいるハリガネムシ類や、頭部に突出可能な吻を持つキョクヒチュウ類が最も近いとされているが、謎の多い動物である。

最近、大西洋のサンゴ砂のあいだからも体長数mmにも満たないほどの仲



「豊潮丸」(広島大学生物生産学部提供)



豊潮丸の後部甲板にて(右から大塚攻助教、中口和光主席一等航海士、郷秋雄船長、著者)

エラヒキムシ幼生の図 成体と大きく形態が違う点は、体全体が鎧のような装甲で覆われていること。前端部は装甲の中に反転して収容することができる。何度か脱皮して成長し、最終的には装甲はなくなる。吻部とげは成体同様に備わっている

△ 深海底より採集した生きたフタツエラヒキムシの一種

調査は、その心臓を調べる航海で、そこでの暮らしぶりを調べてみる。たどけない機会である。